

海老名香葉子さんとの別れ

1月9日、穴水町名誉町民であり、初代林家三平さんのおかみさんである海老名香葉子さんのお別れの会が、東京・上野の寛永寺にて執り行われました。おかみさんを慕う千人を超える参列者と共に、私も最後のお別れをさせていただきました。

海老名さんは戦時中に穴水町へ疎開されたご縁から、終生「穴水町は第二の故郷」と公言され、15年前からは名誉町民として、常に本町に心を寄せてくださいました。私も議員時代から何度も東京・根岸のご自宅を訪問させていただきましたが、その度に溢れんばかりの「穴水愛」を語ってくださったことが懐かしく思い出されます。能登半島地震の発災後も町の行く末を憂い、「力になりたい」とおっしゃってくださいました。その思いを受け継いだ林家一門のお弟子さん方には、何度も本町を訪れ町民を元気づけていただいたことに、感謝の念に堪えません。

一昨年の11月8日、体調が優れない中でお会いした際、帰り際に「町長さんと写真撮りたい」と言っていたことが、おかみさんとの最後の思い出となりました。

ここで、ご長男、林家正蔵さんの言葉を皆様にご紹介します。

生まれてからずっと根岸の里の我家にて 母と一つ屋根の下暮らしてきました
思い返しても母がメソメソ泣いている姿を 見たことがありません
きつと母の涙は戦後 下町の焼け野原 泣いて泣いて泣いて 枯れ果ててしまったのでしょ

笑うことが大好き 唄うことが大好き 何よりも 人が大好き
父がよく言っていた 『明るく 元気に 一生懸命』

その言葉は母の生き様そのものだったに違いありません
ご縁を大切にしていた母 繋いだ御縁を大事にいたします

令和八年一月 喪主 林家正蔵

海老名香葉子さんのご冥福を心よりお祈りいたします。

おかみさん、本当にありがとうございました。

穴水町長 吉村 光輝